

体験活動に係る実践事例



推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。



実践事例

墨田区立東吾孺小学校

【実践の概要】

- 第1学年を対象にウサギに触れる、第2学年を対象にウサギの様子を観察し、世話をする触れ合い体験を実施しました。
- 世話の仕方については、第5学年、第6学年の飼育委員会の児童に教えてもらいながら学びました。



2年生児童が世話をしている様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 児童がウサギについて知りたいことを学校担当獣医師にあらかじめ伝えておき、授業ではゲストティーチャーとして質問に答えていただきました。
- 本校のウサギは臆病な性格で、なでることはできますが、抱っこをすることは難しいです。そのため、ウサギの抱っこが上手にできる動物看護師が抱っこしている様子を動画に撮っていただき、提供してもらいました。



【児童の反応】

- いつも見ている動物でも、実際に触ってみると、温かさを感じたり、エサを食べている様子や排泄の様子を見たりすることで生きていることを実感したりしました。一つの事を知ることで、次の質問につながり、知りたいことが増えていきました。
- 第2学年の児童は世話をすることをとても楽しみしていました。何度か世話をする機会をもつことで命に対する気付きが深まったと感じました。



実践事例

世田谷区立松沢小学校

【実践の概要】

- 第1学年で「動物ふれあい教室」を実施するにあたり、学校担当獣医師から、事前にオンラインで動物と触れ合うときに気を付けることなどについて指導助言していただきました。当日は、「ウサギと触れ合う体験」「犬と触れ合う体験」、「ウサギの心臓の音を聴く体験」、「動物に使う手術器具の話」の四つのコーナーに分かれて体験学習を行いました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- それぞれのコーナーで消毒を行うなど感染症対策をしながら活動を行いました。保護者にボランティアで来ていただいてウサギや犬がびっくりしないように「走らない」や「大声を出さない」などの注意喚起をしていただき、安全に触れ合えることができました。

【児童の反応】

- 初めて動物と触れ合う児童もいて、「ふわふわする。」や「気持ちいい。」、「意外と早い。」などといった触れ合うことで気付くことが多くありました。
- ウサギに触れ合うことでウサギに興味をもち、休み時間にウサギ小屋に行き観察をすることが増えました。
- ウサギの心臓の音を聴く体験活動を通して、人と動物では心臓の音の速さが違うことを感じ取ることができました。「他の動物はどのくらいの速さなのだろう。」と考える児童もいて、学びが広がりとても良い活動になりました。



実践事例

中野区立美鳩小学校

【実践の概要】

- 第2学年は9月中旬から、飼育小屋から教室にモルモットを連れて行き、世話をしました。
- 1月下旬には、第1学年にモルモットについての説明会を行い、来年度への引き継ぎを行いました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 生活科の学習において、学校担当獣医師より正しい抱き方や餌、病気などの飼育の際に大切なことについて助言をいただきました。
- 学校担当獣医師が持参した心音機を使って、モルモットの拍動の速さや音について学習しました。
- 冬休みには、モルモットを家庭で飼育してもらうホームステイを行いました。



少しずつ上手に抱けるようになりました。



【児童の反応】

- モルモットが来てから、休み時間に世話をできるようになり、前よりも学校が楽しくなったという児童が増えました。
- 気持ちが落ち着く児童が増え、生き物を大切にしようとする心が育まれていきました。
- モルモットの世話や小屋掃除などを通して、友達と協力して生き物を大切にする姿が見られるようになりました。



実践事例

青梅市立河辺小学校

【実践の概要】

今年度は、第1学年の生活科「生きもの大すき」の単元と第2学年の生活科「生きものはっけん」の単元の中で、「いのちの授業」を行いました。

学校担当獣医師から、動物による違いやウサギの生態、人間と同じように命をもっていることなど、多くのことを学びました。



ウサギの心音を聞いている様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師から、主に、次のことを教えていただきました。

- ①人間だけでなく、様々な動物が生きていること
 - ・身近な動物や知っている動物
- ②ウサギの体のしくみ
 - ・ウサギの歯（どれがウサギの歯？）
 - ・ウサギの耳（ウサギの耳が大きいのはなぜ？）
 - ・ウサギの目（横についているのはなぜ？）
 - ・ウサギの尻尾（どれがウサギのしっぽかな？）
 - ・ウサギの寿命（何歳まで生きられるのだろうか？）
- ③ウサギの心音と人間の心音を比べたら
 - ・心音を聞き取る機械を使ってたしかめました。
 - ・人間よりずっと心臓が速く動くことが分かりました。

【児童の反応】

- ウサギのことを知り、親しみをもつようになりました。
- さらに知りたいことがたくさん挙がり、まとめて学校担当獣医師に質問をするなど、ウサギの生態についての関心が高まりました。
- 他の動物のことも調べたいと意欲をもちました。
- ウサギの心音を聞いて、生きていることを実感しました。



実践事例

多摩市立連光寺小学校

【実践の概要】

第2学年（2学級）において、7月にはヤギとのふれあい授業、10月にはウサギとのふれあい授業を実施しました。

ヤギでは、子供たちが実際に触れ合った後に、ヤギの生態について分かりやすく説明していただき、児童の疑問を解決することにつながりました。

ウサギでは、実際に児童の腕の中に抱えることができることから、人とウサギの心音を聞いたり、体の特徴を体感したり、人もウサギも落ち着いて触れ合う心構えや抱き方などを教えていただきました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師からは、ヤギもウサギも、動物の立場や気持ちになって考えて対応することが大切であることを学びました。お腹を見せているのは安心して証拠、糞があれば気分がよくないのできれいにした方がよい、下痢にならないように栄養に富むエサは避ける、触れるときには優しく触れるのは人も同じであるということであるなど、動物とふれあう時の基本的なスタンスを学ぶことができました。

ウサギのふれあい授業では、保護者に児童補助として手伝っていただきました。これも、動物と優しく接するための手だてです。

【児童の反応】

初めてウサギを抱く児童も多く、動物への愛着を深めた授業となりました。興奮を抑え、動物の身になって接することで互いの安心感を得ることができると実感できたようです。もっとふれあいたいというのが児童の本音でした。



自分の心音を聞く



うさぎを抱いてふれあう